

（鯖街道熊川宿 案内地図：上ノ町【設置場所：番所横】）

熊川宿：上ノ町^{かみんちよ}地域

熊川宿は、若狭地域と京都の首都を結ぶ主要な交易路である若狭街道に沿った物資の輸送を促進した、繁栄した宿場町でした。歴史ある町は上ノ町、中ノ町、下ノ町の 3 つのエリアに分かれています。

上ノ町地域

熊川宿のこの地域は京都に最も近く、かつては旅行者にとって小浜の港町に向かう入口であり首都へ旅する際の出口として機能していました。若狭の古くからの表現では、「遠くの首都はたった 18 里しか離れていない」と言われており、経験豊富な運搬人たちはたった 1 日でこの距離（約 72 km）を踏破することができました。

宿場町の入口には、その道を監視するために熊川番所が設置されました。そこに駐留していた政府の役人は、旅行許可を検査し、輸送された商品に税を課しました。番所の近くには、火や洪水から身を守ると言われる神が祀られた^{ごんげんじんじや}権現神社の元の場所があります。

番所の向こうの主要な道路には、かつては運送会社、運搬人の事業所、さまざまな商店、宿泊施設が並んでいました。道路沿いの店先を流れる前川は、住民と旅行者にとって水源としての役割を果たしました。歴史ある町並みには、瓦屋根や格子窓を備えた伝統的な建物が多くあり、宿場町として栄えた熊川宿の雰囲気を残しています。